

【原著】

1. Hiroaki Y, Tani K, Kamegawa A, Gyobu N, Nishikawa K, Suzuki H, Walz T, Sasaki S, Mitsuoka K, Kimura K, Mizoguchi A, Fujiyoshi Y. Implications of the aquaporin-4 structure on array formation and cell adhesion. *J Mol Biol.* 355:628-639, 2006.
2. Ito K, Ozasa H, Noda Y, Horikawa S. Splenic artery ligation ameliorates hepatic ischemia and reperfusion injury in rats. *Liver Int.* 26: 254-260, 2006.
3. Nakakoshi M, Morishita Y, Usui K, Ohtsuki M, Ishibashi K. Identification of a keratinocarcinoma cell line expressing AQP3. *Biol Cell.* 98: 95-100, 2006.
4. Nakayama A, Ida T, Hatano Y, Oohara K, Yoshida H, Baba T, Sakamoto H, Shiba K. Presence of immunoreactive albumin in the urine of diabetic patients. *J Clin Lab Anal.* 20:29-36, 2006.
5. Ohta A, Yang SS, Rai T, Chiga M, Sasaki S, Uchida S. Overexpression of human WNK1 increases paracellular chloride permeability and phosphorylation of claudin-4 in MDCKII cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 349: 804-808, 2006.
6. Rai T, Sasaki S, Uchida S: The polarized trafficking of the aquaporin-3 water channel is mediated by an N-Terminal Sorting Signal. *Am J Physiol Cell Physiol.* 290(1): C298-304, 2006.
7. Renjiro Kuriyama, Anders Traneous, Tadashi Ikegami. Icodextrin reduces mortality and dropout rate in Japanese patients. *Advances in Peritoneal Dialysis vol.22: 108-110, 2006.*
8. Shiigai T, Maeda Y. Current Problems Around the Kidney Disease Field in Japan. *J Rural Med.* 1:22-23, 2006.
9. Shiigai T. THE STRATEGY FOR THE MANAGEMENT OF PROGRESSIVE RENAL FAILURE. *J Rural Med.* 1:76, 2006.
10. Sohara E, Rai T, Yang SS, Uchida K, Nitta K, Horita S, Ohno M, Harada A, Sasaki S, Uchida S. Pathogenesis and treatment of autosomal-dominant nephrogenic diabetes insipidus caused by an aquaporin 2 mutation. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 103: 14217-14222, 2006.
11. Sohara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S. Physiological roles of AQP7 in the kidney: Lessons from AQP7 knockout mice. *Biochim Biophys Acta.* 1758(8): 1106-10, 2006.
12. Suda S, Rai T, Sohara E, Sasaki S, Uchida S. Postnatal expression of KLF12 in the inner medullary collecting ducts of kidney and its trans-activation of UT-A1 urea transporter promoter. *Biochem Biophys Res Commun.* 344(1): 246-52 2006.
13. Suzuki T, Rai T, Hayama A, Sohara E, Suda S, Itoh T, Sasaki S, and Uchida S: Intracellular localization of CIC chloride channels and their ability to form hetero-oligomers. *J Cell Physiol,* 206: 792-798, 2006.
14. Wada K, Mizuguchi Y, Wada Y, Ohno Y, Iino Y. Hyperlipidemia, Sleeplessness, and Smoking as Risk Factors for Proteinuria among High Altitude Mountain Trekkers. *Nephrology.* 2: 131-136, 2006.
15. 太田英里子, 千田佳子, 土肥まゆみ, 氏家一知, 井田隆, 安藤稔, 小林大輔, 広川勝いく, 春日猛, 佐々木成: 肛門および多臓器に多発性透析アミロイド腫瘍を呈した血液透析患者の1剖検例. *日本透析医学会雑誌*39(8):1293-1297, 2006.
16. 岡本貴行, 吉川和寛, 菅憲広, 中村太一, 保坂茂, 日ノ下文彦. 心タンポナーデを合併した血液透析患者の2例. *臨床透析* 22(12):1691-1696, 2006.
17. 小沢潔. 維持透析患者における腸管機能の特異性, *日透医誌*21(1):3-10, 2006.
18. 小沢潔. 劇症型抗リン脂質抗体症候群一例の発症から透析開始まで10年間の臨床経過について. *神奈川高血圧と腎カンファレンス* 18: 50-64, 2006.
19. 勝島由利子, 小川英伸, 藤原幾磨, 小島加奈子, 根東義明, 桑原道雄, 佐々木成, 飯沼一字. 著明な貧血, 高ナトリウム血症をきたした常染色体優性遺伝性腎性尿崩症の1女兒例. *小児科*47:1153-1158, 2006.
20. 菅憲広, 吉川和寛, 岡本貴行, 中村太一, 日ノ下文彦. 重症肺炎・横紋筋融解症・急性腎不全・呼吸不全・脳症を来しCHDFを施行したHIV感染患者の1救命例. *ICUとCCU 30 (別冊) : S177-S180, 2006.*

21. 神田英一郎, 稲葉直人, 青柳誠, 前田益孝, 椎貝達夫. 保存期慢性腎不全例の長期観察にもとづいたクレアチニククリアランス推算式. 茨城県農村医学会雑誌19:57-61, 2006.
22. 神田英一郎, 前田益孝, 椎貝達夫. 集学療法による腎機能低下抑制効果. 臨床体液 33:49-53, 2006.
23. 小林凡子, 小田敏子, 若林麻衣, 羽田俊彦, 安藤亮一, 宮本貴庸, 尾林徹, 菅野隆彦, 藤原等. ネフローゼ症候群に重篤な動脈血栓症を併発した2症例. 腎と透析61:571-574, 2006.
24. 椎貝達夫. 慢性腎疾患のステージ別にみた食事療法1) 保存期慢性腎不全(非糖尿病). 臨牀透析12:1725-1732, 2006.
25. 椎貝達夫, 稲葉直人, 青柳誠, 神田英一郎, 前田益孝, 内藤裕美, 桜井靖, 森穂波, 舟山いずみ, 田部井薫. 2型糖尿病・腎不全へのCandesartan投与下に, 低蛋白食は進行抑制効果を示すか-ランダム化比較試験の中間報告-. Diabetes Frontier.17:672, 2006.
26. 田村博之. 出口部ケアのストラテジー. 腎と透析61別冊127-129, 2006.
27. 中村太一, 藤倉雄二, 菅憲広, 畑添久美子, 日ノ下文彦. 高度肥満の是正が尿蛋白減少に寄与した IgA 腎症の1例. 日本腎臓学会誌 48(7):675-679, 2006.

Correspondence

1. Kida Y, Sato T. Donepezil for severe Alzheimer's disease. Lancet. 368:361-362, 2006.
2. Kida Y, Sato T. The metabolic syndrome as a predictor of nonalcoholic fatty liver disease. Ann Intern Med. 144:379-380, 2006.
3. Kida Y. Critically ill patients and acute renal failure. JAMA. 295:624-625, 2006.
4. Kida Y. Apolipoprotein E and progression of chronic kidney disease. JAMA. 295:35-36, 2006.

【著書】

1. 安藤亮一. 高齢者の体液代謝の特徴はなんですか?水・電解質がわかる輸液ケア. pp150-151, 飯野靖彦編. 中山書店 2006.
2. 安藤亮一. 高齢者に輸液するとき注意することは?水・電解質がわかる輸液ケア. Pp152-153, 飯野靖彦編. 中山書店 2006.
3. 安藤亮一. 全身そう痒症が強い. どうしよう? 透析療法これは困ったぞ, どうしよう! pp162-166, 秋澤忠男編. 中外医学社 2006.
4. 安藤亮一. 難治性の皮疹が全身に出現する. どうしよう? 透析療法これは困ったぞ, どうしよう! pp167-172, 秋澤忠男編. 中外医学社 2006.
5. 安藤亮一. ナトリウム (Na) /クロール (Cl) . 患者指導に役立つ 改訂2版 透析患者の検査値ハンドブック. pp28-33, 斎藤明監修. メディカ出版 2006.
6. 小沢潔. ヘモグロビンとヘマトクリット. 改訂2版 透析患者の検査値ハンドブック. pp5-9. 齊藤明編. メディカ出版 2006.
7. 齊藤博. おかしやすい輸液過誤-輸液の安全域と安全限界. Medical Practice 臨時増刊号 新・輸液ガイド. pp86-91. 浅野泰編. 文光堂 2006.
8. 篠田俊雄. 血液浄化療法の概要. 血液浄化療法ハンドブック. 改定第4版, 透析療法合同専門委員会企画・編集. pp59-65, 協同医書出版 2006.
9. 篠田俊雄, 山家敏彦. アフェレシス療法. 血液浄化療法ハンドブック. 改定第4版, 透析療法合同専門委員会企画・編集. pp95-112, 協同医書出版 2006.
10. 田中啓之, 佐々木成. 2. 診断のための検査 2)血液生化学検査 腎・尿路疾患の診療指針'06. 腎と透析61増刊号 pp111-115, 2006.
11. 野田裕美, 堀川三郎, 佐々木成. 腎性尿崩症. 腎と透析増刊号 腎尿路疾患の診療指針 '06. pp 335-339. 東京医学社 2006.
12. 日ノ下文彦. IgA 腎症. 内科外来診療実践ガイド(縮刷版). 和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編. 文光堂. pp274-278, 2006.

13. 日ノ下文彦, ネフローゼ症候群. 内科外来診療実践ガイド (縮刷版). 和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編, 文光堂, pp279-281, 2006.
14. 日ノ下文彦, 廣江道昭. 心血管合併症とQOL. 透析療法ネクスト?-透析患者のQOL向上をめざして. 秋葉隆, 秋澤忠男編, 医学図書出版株式会社, pp46-62, 2006.
15. 和田健太郎, 篠田俊雄 : (分担). Q1. 輸液経路にはどのような経路がありますか?. 輸液ケアpp34-35. 飯野靖彦監修. 2006.
16. 和田健太郎, 篠田俊雄 : (分担). Q2. 輸液経路はどのように選択しますか?. 輸液ケアpp36-37. 飯野靖彦監修. 2006.
17. 和田健太郎, 篠田俊雄 : (分担). Q3. 穿刺針はどのように固定しますか?. 輸液ケアpp38-39. 飯野靖彦監修. 2006.
18. 和田健太郎, 篠田俊雄 : (分担). Q4. 静脈炎はどのように予防しますか?. 輸液ケアpp40-41. 飯野靖彦監修. 2006.

【総説】

1. Ishibashi K. Aquaporin subfamily with unusual NPA boxes. *Biochim Biophys Acta*. 1758: 989-993, 2006.
2. Noda Y, Sasaki S. Regulation of aquaporin-2 trafficking and its binding protein complex. *Biochim. Biophys. Acta*. 1758:1117-1125, 2006.
3. Sasaki S. *Nephrologists Sans Frontieres : Chronic kidney disease in Japan*. *Kidney Int*. 69:1485-1486, 2006.
4. 安藤亮一 : 第43回日本人工臓器学会大会座長報告 血液浄化. *人工臓器*35:131, 2006.
5. 石橋賢一 : アクアポリン水チャネルと疾患. *医学のあゆみ*216:705-711, 2006.
6. 石橋賢一 : 水チャネルの比較生物学. *生体の科学* 57: 476-477, 2006.
7. 内田信一 : 基礎研究の新たな方向性を解く 疾患解明Overview 高血圧症の新たな原因遺伝子WNKキナーゼと偽性低アルドステロン症II型. *実験医学*24巻14号 2181-2186, 2006.
8. 内田信一 : 【水・電解質 診断の実際とその進歩】膜輸送体蛋白と尿細管機能異常の進歩 水チャネル. *日本内科学会雑誌*(0021-5384)95巻5, 873-876, 2006.
9. 内田信一 : 【分子腎臓病学 分子生物学的アプローチと分子病態生理学】 基礎編 腎臓の構造と機能 腎臓における物質輸送の分子機構 Cl-チャネル. *日本臨床*64巻増刊2, 129-133, 2006.
10. 内田信一, 棚瀬健仁 : 注目される腎関連蛋白 ATP dependent potassium channels. *腎と透析*60巻1号, 6-7, 2006.
11. 太田英里子, 佐々木成 : 腎性尿崩症. *分子腎臓病学 日本臨床*64巻増刊 528-530, 2006.
12. 太田哲人, 内田信一 : 【体液調節とホルモン】体液調節の基礎 腎臓と水チャネル ホルモンと臨床54巻5号. 393-396, 2006.
13. 太田哲人, 内田信一 : 腎臓と水チャネル. 特集ホルモンと臨床 pp23-26, 医学の世界社 2006.
14. 太田哲人, 佐々木成 : Liddle症候群. *分子腎臓学*pp513-516, 日本臨床 2006.
15. 神田英一郎, 寺田典生 : 多尿, 成人病と生活習慣病. 36 : 1079-1082, 2006.
16. 桑名仁, 小林隆彦, 寺田典生 : 腎臓の老化とホルモン機能 (ADH, Aldo). *腎と透析* 60 : 997-1003, 2006.
17. 桑原道雄 : Naの上昇—その鑑別の根拠と病態生理, 対応一. *腎と透析* 60:58-62, 2006.
18. 桑原道雄 : 尿生化学検査. *腎と透析*61増刊116-120, 2006.
19. 小林克樹 : 水・電解質異常の新展開. *医学のあゆみ*Vol. 216, No.9: 633-636, 2006.
20. 佐々木成 : アクアポリンと疾患. *実験医学*24:770-775, 2006 .
21. 佐々木成 : V2 receptor. *腎と透析* 61:148-149, 2006.
22. 佐々木成 : Aquaporin-2. *腎と透析* 61:150-151, 2006.

23. 佐々木成：科研費審査にかかわって. 学術月報59:708-710, 2006.
24. 佐々木成：腎性尿崩症. 腎と透析61:853-856, 2006.
25. 佐藤弘, 安井廣迪, 池方香里, 松岡優子, 中沢司, 室賀一宏. ワークショップ 漢方調剤に必要な臨床的知識 (ミキ調剤薬局篇 (1)), 漢方の臨床 53 (11) :1853-1869, 2006.
26. 佐藤弘, 安井廣迪, 池方香里, 松岡優子, 中沢司, 室賀一宏. ワークショップ 漢方調剤に必要な臨床的知識 (ミキ調剤薬局篇 (2)), 漢方の臨床 53 (12) :2097-2106, 2006.
27. 篠田俊雄：急性腎不全の病態生理とその対応. 日臨床生理誌36: 125-129, 2006.
28. 篠田俊雄：腎・血液領域のアフェレシス療法-エビデンスとガイドライン. 日アフェレシス会誌25: 47-50, 2006.
29. 篠田俊雄：血液浄化器の機能分類の意義と開発動向. 腎と透析 別冊HDF療法06: 14-17, 2006.
30. 篠田俊雄：透析困難症. 腎と透析61増刊530-532, 2006.
- 篠田俊雄：血液浄化療法の選択と適正透析. 腎と透析61: 648-650, 2006.
31. 篠田俊雄：血液浄化療法の歴史的変遷と現在の技術. クリニカルエンジニアリング17: 437- 440, 2006.
32. 篠田俊雄：アフェレシス治療と保険診療. 腎と透析60: 202-205, 2006.
33. 篠田俊雄：待機期間の長い献腎移植の問題点, 少ない献腎の有効活用. 今日の移植19: 307, 2006.
34. 田島真人, 内田信一：注目される腎関連蛋白 Barttin. 腎と透析60 (2) :174-175, 2006.
35. 田島真人, 内田信一：注目される腎関連蛋白 ClC-Kb chloride channel. 腎と透析60:(1) 8-9, 2006.
36. 田中啓之：胚性幹細胞(ES細胞)からの分化誘導. 腎臓Vol.28 No3 pp175-179. 日本腎臓財団 2006.
37. 寺田典生, 田中啓之, 佐々木成：細胞移植療法の可能性, 腎臓, P180-4, 2006.
38. 寺田典生, 田中啓之, 佐々木成：再生医学と腎臓. 分子腎臓病学 (日本臨床, 増刊号) 日本臨床社 pp 7-13, 2006.
39. 野田裕美：水チャネルアクアポリン2の細胞内輸送メカニズム. Annual Review腎臓2006. pp25-29. 中外医学社 2006.
40. 油井直史, 内田信一：Liddle症候群. 腎と透析61(6):844-847, 2006.
41. 吉川桃乃, 内田信一【第一線医師・研修医・コメディカルのための新・輸液ガイド すぐ役立つ手技・手法のすべて】ベッドサイドですぐ役立つ水・電解質および栄養輸液とその管理の実際 低クロール血症と高クロール血症の是正法と輸液管理. Medical Practice23巻臨増, 231-234, 2006.
42. 吉本 宏, 篠田俊雄：院内感染症の対応. 腎と透析 60: 807-811, 2006.
43. 室賀一宏, 安井廣迪. 処方解説 桂枝加芍薬湯. Phill 漢方14号:7-8, 2006.
44. 室賀一宏, 安井廣迪. 処方解説 安中散. Phill 漢方15号:9-10, 2006.
45. 室賀一宏, 安井廣迪. 処方解説 大柴胡湯, Phill 漢方17号:7-8, 2006.
46. 室賀一宏, 矢数芳英, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(7) 八味地黄丸 (その4). 漢方の臨床53 (2) :377-387, 2006.
47. 室賀一宏, 矢数芳英, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(7) 八味地黄丸 (その5), 漢方の臨床53 (3) :548-556, 2006.
48. 室賀一宏, 矢数芳英, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(7) 八味地黄丸 (その6), 漢方の臨床53 (4) :729-736, 2006.
49. 矢数芳英, 室賀一宏, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(8) 大柴胡湯 (その1), 漢方の臨床53 (6) :1049-1060, 2006.

50. 矢数芳英, 室賀一宏, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(8) 大柴胡湯(その2), 漢方の臨床53(7):1201-1209, 2006.
51. 矢数芳英, 室賀一宏, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(8) 大柴胡湯(その3), 漢方の臨床53(9):1589-1595, 2006.
52. 矢数芳英, 室賀一宏, 菊谷健彦, 大貫進, 張仁彰, 岡崎仁子, 三上正利, 安井廣迪. 臨床薬剤師のための〈医療用漢方製剤の知識〉(8) 大柴胡湯(その4), 漢方の臨床53(10):1753-1743, 2006.
53. 横瀬友好, 矢久保修嗣, 木下優子, 室賀一宏, 大久保仁, 荒川泰行. 情動ストレスによる血圧上昇に対する柴胡加竜骨牡蠣湯の効果. 漢方と最新治療15(2):153, 2006.
54. 和田健太郎, 篠田俊雄: 急性疾患に対する抗凝固薬の使用法特集ー急性血液浄化の最近の動向. クリニカルエンジニアリング17(9): 936-938, 2006.
55. 和田健太郎, 篠田俊雄: 透析中血圧低下のため毎回引ききれない患者さん. どうすればいい? 透析ケア12: 804-807, 2006.
56. 和田健太郎, 篠田俊雄: 除水速度を段階的に変えることにはどのような目的があるの? 透析ケア12: 808-811, 2006.